

月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

94.4.11 No. 3976

重大な決意の
闘争

朝鮮侵略戦争阻止!

新たな反戦闘争の起り

「北朝鮮の核脅威」論 は、戦争への口実だ!

アメリカによる朝鮮侵略戦争の挑発が一線をこえ、日本帝国主義もまた先を争うかのように自衛隊の出兵をはじめ全面的な介入策動を強めている。朝鮮をとりまく情勢は、まさに一触即発の重大局面を迎えている。この戦争的激突を許すなら、再びアジア・朝鮮人民におびただし犠牲を負わせてしまうのだ。断じてそのような過ちを繰り返してはならない。

「アメリカの狙いとは」

三月一六日、IAEA(国際原子力機関)実はアメリカの核戦略を支える機関)が「北朝鮮が核査察拒否」を発表。「経済制裁」「生活必需品の禁輸」などで、戦争挑発そのものである(る)などの強行処置が強調された。アメリカは、「経済制裁」

への踏み切りを合図に、対北朝鮮軍事包囲、海上封鎖へと突き進もうとしているのである。南朝鮮・韓国への地对空ミサイル・パトリオットの配備、チームスピリットと重ね合わせれば、これはもはや戦争そのものである。一九九一年の「一・一七」イラク爆撃型戦争発動に行き着くというところである。断じて許してはならない。

この戦争の動機は、ベトナム戦争でもそうであったように、アジアの経済的権益の奪取と再支配にあることは明白である。「北朝鮮の核の脅威」は、戦争のための口実にすぎないのである。

「北朝鮮が戦争宣言!？」 「戦争になればソウルは火の海」

また、そうした状況のもと三

月一九開催された南北朝鮮実務者協議でなされている議論は、(北代表)「板門店からソウルは遠くない。戦争になればソウルは火の海になるだろう。」(南代表)「戦争宣言をするのか、戦争には戦争で応じると。」との議論がなされている。米の戦争挑発に対し、北朝鮮も対抗的になるのは必至であり、すでに戦争が備えた準備がなされているからこそ、そうした発言が飛び出していることは容易に予想できる。

「戦争体制構築に進 日本帝国主義」

日本支配階級の危機感に浸ま。すでにアジア全域に深々権益を確保している日本は、それを失うことは国家的死滅を意味する」として、それを守るためには早急に核武装を含めた戦争体制の確立が不可欠だとしている。

小沢一郎はあからさまに「湾岸戦争のような遅れをとってはならない」と公言し、「朝鮮有事」を想定し、日本の軍隊がどう行動するかの具体的研究に全力を注いでいるのである。

そして、前述のとおり旅客機で行けば二時間もかからないところで戦争の火が起ころうとしているのだ。日本の政治家やわれわれ労働者がどう思おうが国際情勢は待ってくれない。事態

はカンボジア等のPKOの比ではない。戦争になれば米は「カネだけではだめ、人も出せ」と自衛隊派兵を要求することになる。

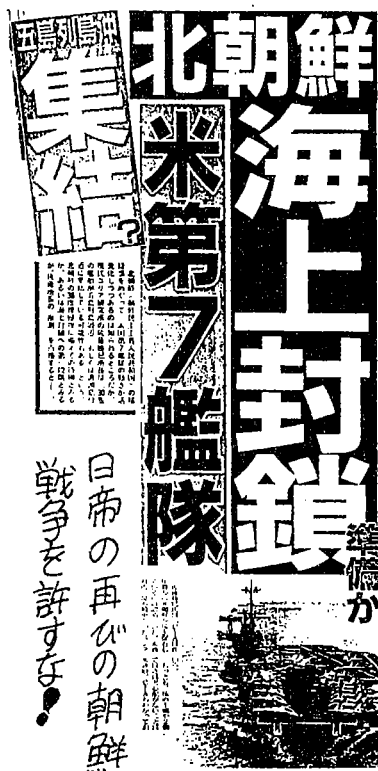
また、そうした過程は労働運動が当然弾圧されることは必至である。「賃上げだ」「労働条件改善だ」「ストライキだ」などということが支配者にとって許されるはずがない。

「アジア人民に二度と 侵略の銃を向けるな」

「三〇隻の艦船が五島列島周辺もしくは済洲島付近に集結しているのでは」(現代コリア研究所・佐藤所長)横須賀にも後続艦隊が待機...

われわれは、重大な決意を込め、朝鮮侵略戦争阻止、日本の核武装化絶対阻止!

国鉄闘争と反戦闘争を両軸に、今こそ多くの労働者・市民の決起をつくりだそう。戦争反対の一大運動をまきおこそう!



日帝の再びの朝鮮侵略戦争を許すな!

千葉労働
物販担当者会議
とき 4月22日 18時
ところ 動力車会館にて